



サクサグループ

環境報告書

2016



目 次

目 次	2
会社概要	2
編集方針	2
事業概要	2
環境報告書2016について	3
環境管理のあゆみ	3
環境管理に影響を及ぼす事業環境等の変化	3
ごあいさつ	4
サクサグループ環境宣言・環境方針	5
サクサグループ環境中期計画	5
環境保全活動推進組織体制	6
環境マネジメントシステム・ISO14001認証取得状況	6
製品の環境配慮	7～8
環境配慮設計に関わる制度	7
サクサエコ商品	8
事業活動に関する環境配慮	9～11
地球温暖化防止・省エネルギー	9
廃棄物削減・循環資源化	9
化学物質管理、ポリ塩化ビフェニルの管理、規制遵守状況	10
緊急事態対応、環境教育・啓蒙活動	11
2015年度(平成27年度)環境目標達成状況	11
社会貢献活動を通じた環境への寄与	12

会 社 概 要

商 号	サクサホールディングス株式会社
本 社 所在地	〒108-8050 東京都港区白金一丁目17番3号 NBFプラチナタワー
設 立	2004年2月2日
資本金	108億円(2016年3月31日現在)
代表者	代表取締役社長 松尾 直樹
年 間 売上高 グループ 従業員数	463億円(2016年3月期実績・連結) 1,111名(2016年3月31日現在)
経営理念	独創的な技術を核に、新しい価値を創造し、 活力とゆとりある社会の発展に貢献する
＜サクサグループ(2016年3月31日時点)＞ 連結決算範囲	
サクサホールディングス株式会社(持株会社)	
└ サクサ株式会社(事業中核会社)	
└ サクサテク/株式会社(生産会社)	
└ 株式会社コアタック(生産会社)	
└ サクサシステムエンジニアリング株式会社(システム開発会社)	
└ サクサシステムアメージング株式会社(システム開発会社) ※1	
└ 株式会社システム・ケイ(システム開発会社) ※1	
└ 株式会社マイスター(システム開発会社) ※1	
└ サクサプロアシスト株式会社(グループ内サービス会社)	
└ サクサプレジジョン株式会社(生産販売会社)	
└ サクサビジネスシステム株式会社(販売・保守サービス会社)	
※1 サクサグループ環境保全活動推進組織外であるため、本報告書での活動実績には含まれていません。	

編 集 方 針

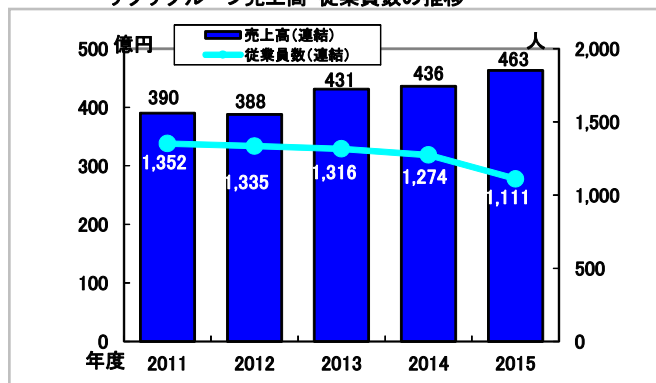
参照ガイドライン	環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)を可能な範囲において参考にし、作成しています。
公表媒体	本報告書は、紙資源使用抑制の観点から、サクサグループホームページでのWebによる公開のみとします。 http://www.saxa.co.jp/ 「環境への取り組み」
発行日	2016年9月30日(毎年、9月下旬)

事 業 概 要

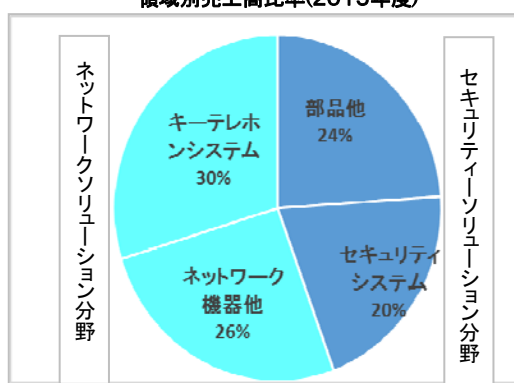
サクサグループは、「つなげる技術の、その先へ。」をコーポレートメッセージとし、今まで培ってきたコミュニケーション機器の提供からさらに進化したお客様の安心、安全、快適、便利を実現し、お客様の明日を担う商品、ソリューションの提供を目指す企業グループです。

事業領域	＜ソリューション・商品＞
中小規模オフィス向けキーテレホンシステム、IP電話機、IPインターホン、IPドアホン、光関連機器、ネットワーク機器、VoIP通話録音システム、警備保障会社向け警備システム、火災通報装置、オートホンシステム、ホームセキュリティシステム、インターネットカメラシステム、キャンパス・企業向けカードシステム、一斉配信システム、TV会議/Web会議システム、各種カードR/W、ネットワークビデオレコーダ、警報機、センサ関連商品、画像認識システムおよびこれら商品によるソリューションの提供	

サクサグループ売上高・従業員数の推移



領域別売上高比率(2015年度)



会社概要、事業概要等の詳細については、サクサグループホームページ(<http://www.saxa.co.jp/>)の「企業情報」および「株主・投資家の皆様へ」に掲載した公表資料等で、また、ソリューション・商品の詳細は「製品・システム情報」「ソリューション」でご覧になることができます。

環境報告書2016について

対 象 期 間	本環境報告書は、2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)における状況、成果等を公開するものですが、内容により、当該年度前後の事項に関するものを含む場合があります。必要に応じ時期を記載します。																																																																				
活動結果、実績等に関する対象範囲(商号、所在地およびこれに関わる情報は、2016年4月1日現在のものです。)	本報告書に記載した内容は、以下のグループ企業によるものです。 必要により、これ以外のグループ企業、拠点等に関する情報を記載する場合は、会社名、拠点名等を記載します。 なお、エネルギー使用量、廃棄物のデータは、自社で直接把握、管理できる範囲としてサクサグループ所有事業場(②～⑥の5事業場)について集計、記載しています。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>①</th><th>②</th><th>③</th><th>④</th><th>⑤</th><th>⑥</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サクサホールディングス株式会社</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>サクサ株式会社</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>サクサシステムエンジニアリング株式会社</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr> <tr> <td>サクサテクノ株式会社※1</td><td></td><td></td><td>○※1</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>サクサプレジジョン株式会社 ※2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td></tr> <tr> <td>株式会社コアタック</td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>サクサビジネスシステム株式会社 ※3</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>サクサプロアシスト株式会社</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ◎: 本社(または本社機能)所在地、○: その他の事業所等 ①はテナントとして入居 ① 東京都港区白金1-17-3 NBF プラチナタワー ② 神奈川県相模原市中央区宮下3-14-15 ③ 山形県米沢市東1-10-71 ④ 山形県米沢市八幡原4-3146-13 ⑤ 山形県米沢市中田町1713 ⑥ 青森県八戸市北インター工業団地1-3-54 ※1 サクサテクノ株式会社とサクサテクニカルサービス株式会社は2015年4月1日に合併。米沢事業場は旧サクサテクニカルサービス株式会社の事業場。 ※2 本店 : 東京都新宿区新宿1-4-8 ※3 本社 : 東京都品川区東五反田1-7-6 藤和東五反田ビル							①	②	③	④	⑤	⑥	サクサホールディングス株式会社	◎	○					サクサ株式会社	◎	○	○				サクサシステムエンジニアリング株式会社		○				◎	サクサテクノ株式会社※1			○※1	◎			サクサプレジジョン株式会社 ※2					◎		株式会社コアタック			◎				サクサビジネスシステム株式会社 ※3		○					サクサプロアシスト株式会社		◎	○			
	①	②	③	④	⑤	⑥																																																															
サクサホールディングス株式会社	◎	○																																																																			
サクサ株式会社	◎	○	○																																																																		
サクサシステムエンジニアリング株式会社		○				◎																																																															
サクサテクノ株式会社※1			○※1	◎																																																																	
サクサプレジジョン株式会社 ※2					◎																																																																
株式会社コアタック			◎																																																																		
サクサビジネスシステム株式会社 ※3		○																																																																			
サクサプロアシスト株式会社		◎	○																																																																		
お 問 合 せ 先	サクサホールディングス株式会社 CSR推進室 〒108-8050 東京都港区白金1-17-3 NBF プラチナタワー TEL:03-5791-5515 FAX:03-5791-5562 E-mail:eco@saxa.co.jp																																																																				

環境管理のあゆみ

年	主 な 出 来 事
2004(H16)	サクサグループ発足、グループ一体となった環境マネジメントシステムを構築、運用開始(4月)
2005(H17)	・サクサ株式会社として ISO14001 認証取得済みの本社、相模原、米沢地区に加え、中延事業場を、また、関連事業所としてサクサシステムエンジニアリング株式会社(青森県八戸市)、サクサテクニカルサービス株式会社(栃木県矢板市)を拡大登録、グループ一体となった認証を取得(3月)(注:最新の認証登録範囲は6ページに記載) ・サクサエコ製品基準制定、認定開始(4月)
2006(H18)	・閉鎖事業場(目黒・中延・栃木)からのポリ塩化ビフェニル使用機器移動、届出完了(～3月) ・ISO14001 2004年版認証へ移行(3月) ・有害元素蛍光X線検査装置稼働開始(4月) ・サクサ相模原オフィス 5トンボイラー廃止(5月)
2009(H21)	・サクサグループグリーン調達ガイドラインをホームページに公開(6月)
2011(H23) ～2012(H24)	・CSRの一環としての環境保全活動の位置付けを明確にするため、サクサホールディングス株式会社に環境保全活動の主管部門を設置(2011年4月)、ISO14001 認証登録企業もサクサホールディング株式会社に変更(2012年3月)
2012(H24)	・サクサ米沢事業場のボイラー廃止(11月)、大気汚染防止法ばい煙発生施設の該当施設は全廃
2013(H25)	・サクサ米沢事業場保管の廃PCB(コンデンサ7台)について廃棄処理完了(8月)
2015(H27)	・サクサプレジジョン株式会社保管の廃PCB(コンデンサ1台)について廃棄処理完了(5月) ・サクサ米沢事業場保管の廃PCB(コンデンサ2台)について廃棄処理完了(8月) ・製品含有化学物質管理システムの更新(9月)
2016(H28)	・サクサ米沢事業場保管の廃PCB(高圧コンデンサ1台、安定器等汚染物2缶)について廃棄処理申請(3月)

環境管理に影響を及ぼす事業環境等の変化

2015年度、サクサグループの環境管理に影響を及ぼす事業環境上の変化は次のとおりです。

(既に環境報告書2015に記載した事項です。)

環境管理上に影響を及ぼす事業環境等の変化	対 応
サクサテクノ株式会社とサクサテクニカルサービス株式会社は、2015年4月1日付で合併し、商号はサクサテクノ株式会社となりました。	合併後も場所、設備等に変更はなく、環境管理に関する影響はないと判断しています。(既報)

ごあいさつ



サクサホールディングス株式会社
代表取締役社長

松尾 直樹

2015年気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)で合意された「パリ協定」の内容は、世界全体で今世紀後半には、人間活動による温室効果ガス排出量を実質的にゼロにしていく方向を打ち出しました。総じて見れば、世界全体の気候変動(温暖化)対策を、今後継続的に、強化し続けていく方向が明確に示されたことになり、画期的な国際合意であると言えます。この合意は低炭素社会実現のための意思、気候変動に対する危機感の表れであり、今後企業の責任が益々重要になっていくと思われます。

サクサグループはこの様な背景のもと製品等のライフサイクルの段階を通した低炭素活動を進めております。

1. 開発段階での省部品化、省エネ部品の選定の推進
2. 製造段階での廃棄物削減活動、設備更新時の省エネタイプの選定等の施策実施
3. 次のとおりのソリューションの提供により、製品・サービス使用段階でのお客様への省人化・省エネ・省スペースの提案・実現
 - (1)従来の機器販売だけの「モノ売り」から機器、システム・サービスを組み合わせた「コト売り」によるソリューションの提供
 - (2)セキュリティ対策の重要性の高まりから、各種カメラと画像解析・センシングなどの技術を組み合わせた映像ソリューションの提供

これからもサクサグループの環境方針のもと、ライフサイクルをとおした社会的責任を一層進めてまいりますので、皆様からのご支援、ご指導を心からお願い申し上げます。



サクサホールディングス株式会社
専務取締役
CSR推進担当

サクサグループ
環境総括責任者

鈴木 譲

サクサグループでは、重要な経営課題の一つとして2015年度も「CSR活動の着実な実践」を掲げて活動してまいりました。主な活動は以下のとおりです。

1. 環境配慮した製品づくり

製品含有化学物質の進展および情報伝達スキーム統合化への対応のために、従前管理システムを更新し、運用およびグループ内共有化を開始し、管理の効率化を図りました。また、経営課題でもあるコストダウン設計の一環としての「製品の省資源化」の取り組みを実施し、目標を達成しました。

2. 環境に配慮した事業活動

地球温暖化防止のためエネルギー使用原単位を基準年(2012年度)から2020年に向け、年平均1%改善をしていくことを目標に2015年度も継続活動しました。

生産、空調設備更新時に省エネタイプへの置き換え、電気消費量を減らす効果の大きい照明設備のLED化の継続推進、生産、業務の効率化、管理の強化によりエネルギー利用の効率化を図った結果、目標を達成し、電気料金14.7%削減(平成26年度比較)することができました。

今年度成果をあげた活動を更にグループ内で水平展開等をおこない、環境活動を行うことにより、経営に密着した「経営に寄与できる活動」となるよう、今後も継続的改善活動をおこなってまいります。

サクサグループ環境宣言・環境方針

サクサグループ環境宣言



サクサグループは、
すべての事業分野において環境に配慮した事業活動を推進し、
自然と調和した持続可能な社会の発展に貢献します。

サクサホールディングス社長

環境方針

環境宣言に基づき、次の行動指針を定め、
サクサグループのひとりひとりが環境保全活動を実行します。

行動指針

1. 地球環境問題が経営における重要課題であるとの認識を持ち、企業としての社会的責任と社会的貢献の役割を果たすため、環境経営を推進します。
2. 情報通信ネットワーク機器ならびにシステム等に関わる開発、設計、製造、販売、保守その他付帯事業を展開していることを踏まえ、グループ一体となって環境マネジメントシステムを構築し、地球環境保全に取り組みます。
3. 内部環境監査およびマネジメントレビューにより環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境保全活動を推進します。
4. 関連する環境法規制、協定および同意した要求事項、必要に応じて定める自主基準を遵守します。
5. 事業活動、製品、サービスによる、緊急時を含む環境への影響を認識し、適切に管理することにより環境汚染の予防を図ります。
6. 環境方針達成のため、環境に配慮した製品づくり、環境に配慮した事業活動、環境管理を3つの柱とした環境目的・目標を設定し、すべての事業分野をとおして、地球温暖化防止、省エネルギー、省資源、廃棄物削減、循環資源化、有害物質使用削減等に取り組みます。
7. 地域や取引先をはじめとする利害関係者とのコミュニケーションを図り、連携して環境の改善に努めます。
8. 環境方針を全従業員に周知し、環境への意識向上を図ります。

環境総括責任者
2015年6月29日改定

サクサグループ環境中期計画

環境方針に沿って中期計画(環境目的)を策定し、継続的改善に取り組んでいます。
中期計画は、進捗状況および事業環境の変化等に照らして毎年見直しを行い、改訂しています。
この中期計画に基づき、年度ごとに具体的な環境目標を設定し、環境方針の具現化を推進しています。

(2016年度版)

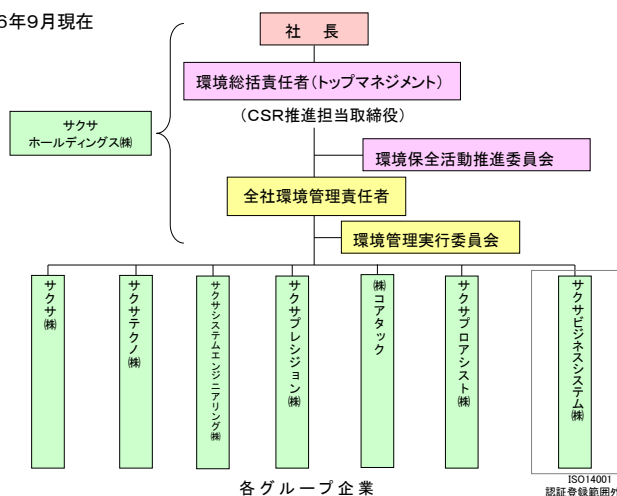
1. 環境に配慮した 製品づくり	(1) 製品含有化学物質管理 製品含有化学物質規制への対応および運用改善
	(2) 環境配慮製品の拡大・充実 環境配慮設計関連規程類の運用を通じた製品環境配慮の推進
2. 環境に配慮した 事業活動☆	(1) 地球温暖化防止 サクサグループ所有事業場(※)において、エネルギー使用量原単位を2020年に向け、年平均1%以上改善
	(2) 廃棄物等の削減・循環資源化 ① 産業廃棄物排出量原単位の改善(資産等の廃棄に関わるものを除く) ② 事業系一般廃棄物排出量原単位の改善(剪定による木くずを除く)
3. 環境管理	(1) 環境マネジメントシステムの向上 経営に寄与する環境マネジメントシステムへの改善

※ サクサ相模原オフィス、サクサ米沢事業場、サクサテクノ(八幡原)、サクサプレジジョン(米沢工場)、サクサシステムエンジニアリング(八戸本社)。

環境保全活動推進組織体制

CSR活動の一環としてサクサグループ一体となった環境保全活動を推進するため、持株会社であるサクサホールディングス株式会社に環境保全活動推進委員会を設置し、活動を行っています。

2016年9月現在



環境保全活動推進委員会は、各グループ企業の代表を含むメンバー構成で、サクサグループにおける中期的な環境計画、年度目標その他環境保全活動における重要事項を審議するとともに、活動の総括を行う機関です。

各グループ企業は、それぞれが独立した実行単位としてグループ全体の計画、目標に沿って、また、独自の視点も加えた目標設定を行い、活動を実施します。

環境マネジメントシステム・ISO14001認証取得状況

サクサグループでは、サクサホールディングス株式会社を登録事業者として、グループ企業を含めたISO14001認証を取得しています。

<環境マネジメントシステムの継続的改善>

環境マネジメントシステム運用状況を確認し、適合性、妥当性、有効性を判断するため、年1回下期に定期内部環境監査を実施し、発見された不適合事項、改善事項について、是正、改善を行っています。

また、毎年、環境マネジメントシステム認証機関による審査を受け、客観的な視点からの指摘に対する改善を行うことによって、レベルアップを図っています。

年度末には、実行部門ごとに、環境目的・目標の達成状況、法規制等の順守状況、内部環境監査の結果等をもとに環境マネジメントレビューを実施し、結果を環境総括責任者へ報告します。

報告された内容を踏まえ、グループ全体の環境保全活動を環境保全活動推進委員会で総括し、環境マネジメントシステムおよび環境に関する計画等に反映し、継続的改善につなげています。



<ISO14001認証取得状況>

<認証機関> 一般社団法人 日本品質保証機構
<登録証番号> JQA-EM0381
<登録事業者> サクサホールディングス株式会社

<登録範囲>

登録活動範囲: ボタン電話装置、カード関連機器、ネットワーク機器、セキュリティ機器、その他部品の設計・開発、製造および販売

関連事業所: ()内は、複数の事業場・拠点がある場合における対象サイト

サクサホールディングス株式会社
サクサ株式会社(本社、相模原、米沢)
サクサテクノ株式会社
サクサシステムエンジニアリング株式会社(八戸本社、相模原)
サクサプレシジョン株式会社(米沢工場)
株式会社コアアタック
サクサプロアシスト株式会社(相模原、米沢)

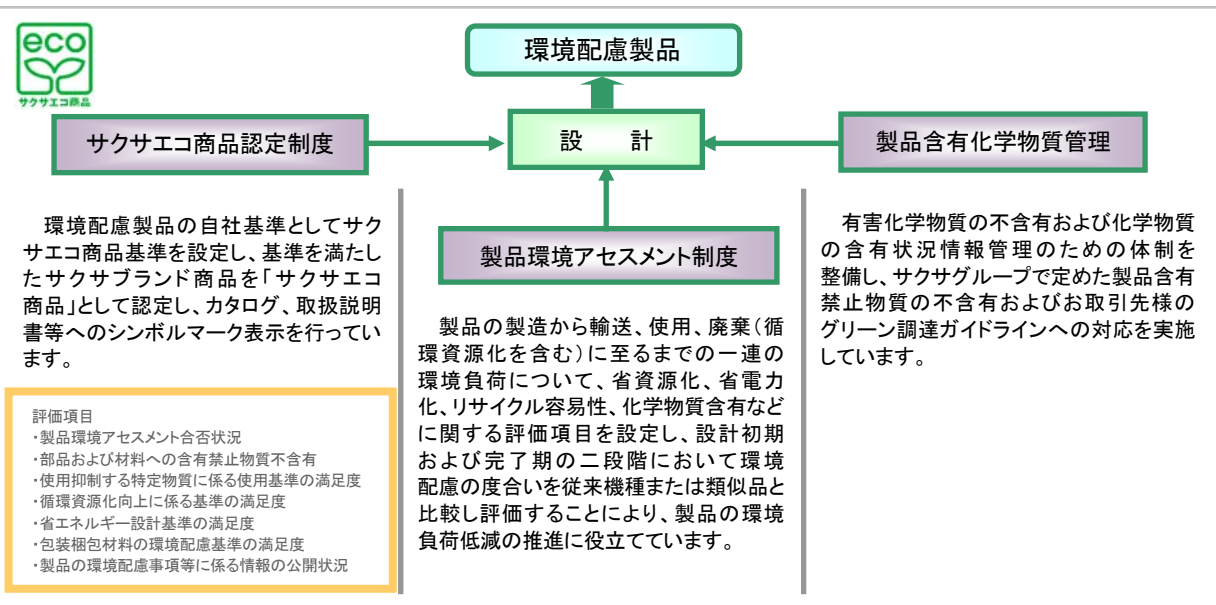
登録更新日 2014年3月19日 有効期限 2017年3月18日

製品の環境配慮

製品の環境配慮は、お客様や社会からの重要なニーズと考えています。

製品の設計に際して環境配慮を推進するための制度を設け、環境配慮設計に努めています。

環境配慮設計に関わる制度



サクサグループグリーン調達ガイドライン

サクサグループグリーン調達ガイドラインを定め、サプライヤー様には製品含有化学物質管理で定めた含有禁止物質の不含有をお願いするとともに、化学物質含有情報について提供協力いただいております。

化学物質に関する事項はもとより、環境に配慮した企業から、環境に配慮した物品を調達するための基準を定めています。

サクサグループグリーン調達ガイドラインは、サクサグループホームページ (<http://www.saxa.co.jp/>) の「環境への取り組み」で公表しております。

最近発表したエコ商品

サクサ株式会社

ビジネスコミュニケーションシステム 「ActysⅢ」主装置 (HX300)

小規模オフィス向けIP対応キーテレホンシステム「ActysⅢ」主装置 (HX300) を2015年10月から販売開始しました。本システムはひかり電話回線を直接収容することができるため、より高音質での通話を利用できます。また、近年の防災意識の高まりを受け、気象庁から配信される高度利用者向けの緊急地震速報に対応しており、緊急地震速報を受信した際には、電話機のLEDランプを点滅させたり、ディスプレイに予測震度を表示したり、また音声ガイダンスでもお知らせします。従来の人感センサを利用したセーフティ機能に加えてさらなる安全・安心を提供いたします。

「HX300」は、コンパクト化、軽量化、部品点数削減などによる省資源化、また、廃棄時のリサイクル容易化など、環境に配慮した設計を行いました。



製品の環境配慮

サクサエコ商品



2016年9月現在の認定商品から主なものを紹介します。

ネットワーク



豊富なビジネスホン機能に加え、
ユニファイドコミュニケーションを実現する新機能を搭載
中小規模オフィス向けキーテレホンシステム
PLATIA (Std/Pro/Ult)



人感センサ標準搭載
DECT カールコードレス電話機
CL820 (PLATIA に接続可能)



コードレスホン
WS800 (PLATIA に接続可能)



より使いやすく進化した IP フォン
SIP 準拠 IP 電話機
IP NetPhone SX II

NEW



オフィスのネットワークセキュリティに必要な機能を1台に集約。
ビジネスに安心をもたらす最強のネットワークセキュリティを。
統合脅威管理アプライアンス
SS3000 II [UTM]



高速で高セキュリティなVPN環境を、
簡単&スピーディに実現
クラウド管理型VPNルータ
ZC1000

セキュリティ



非接触ICカード対応
アナログ電話回線だけでなくインターネット回線接続にも対応
ホームセキュリティ送信機
SHA-5100/SHA-5100C (写真は SHA-5100C)



異常事態をしっかりと感知しスピーディに通報
ホームセキュリティ向け無線センサ
SR シリーズ
(写真は左から、SR-100 パッシブセンサ、SR-300 マグネットセンサ、SR-400 火災センサ)



インターネット接続によるメール通報、オリジナルメッセージによる音声通報や
非接触 IC カード対応など幅広いサービスを提供
中小規模事業所に最適なオフィスセキュリティ送信機
TS-MT0802 / TS-MT0802C/0802S 送信機
(写真は TS-MT0802C 送信機)



IP網経由で警報や画像を転送
中大規模事業所向け機械警備用送信機
TS-NT1003 送信機

各製品の仕様等については、サクサグループホームページ(<http://www.saxa.co.jp/>)の「製品・システム情報」でご覧になれます。

事業活動に関する環境配慮

地球温暖化防止・省エネルギー

地球温暖化防止および電力需給状況を踏まえ、省エネルギー活動を推進しており、2015年度も前年度に引き続き、エネルギーの効率的な使用に に向けた省エネ活動を実施しました。

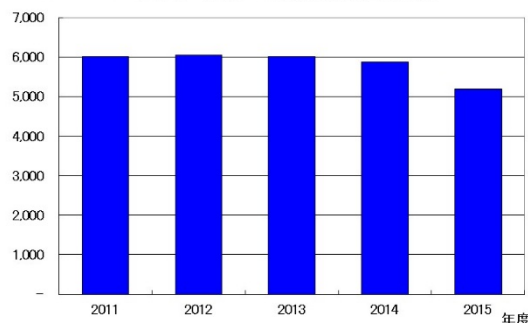
2015年度のエネルギー使用量(原油換算値)は、各グループ会社にて、2013年度から継続的に照明の LED 化、また、環境配慮設備への更新、さらに、電力使用状況監視等の施策を実施し、前年度比11.7%削減することができました。

今後も、設備導入等の省エネ配慮対策を進めてまいります。

2015年度「エネルギー使用内訳」

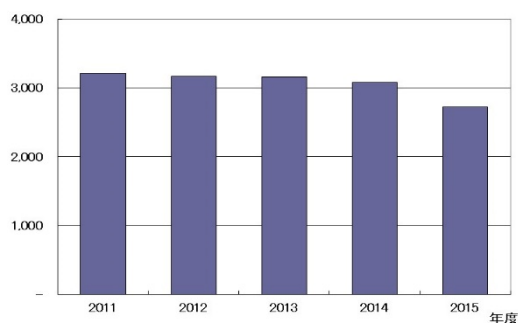


t-CO₂ エネルギー起源 二酸化炭素排出量推移



電力使用量の二酸化炭素排出量への換算係数は、電気事業連合会公表の使用端CO₂排出原単位を使用。

kl エネルギー使用量(原油換算)



サクサグループにおいては、エネルギー使用量原油換算値集計の結果、エネルギーの使用の合理化に関する法律に定められた「特定事業者(※)」として指定を受ける企業はありません。

注)掲載したグラフの集計範囲は、サクサグループが所有している事業場で、2012年度までは6事業場、2013年度からは5事業場です。対象事業場については、3ページ「環境報告書2016について」を参照下さい。また、集計対象エネルギーには、構外を走行する車両のガソリン、軽油を含みません。

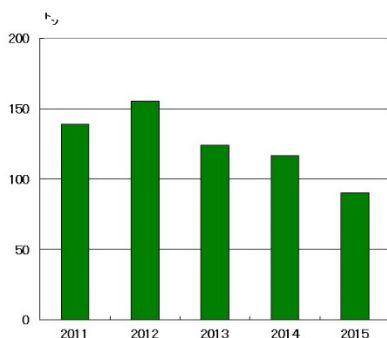
廃棄物削減・循環資源化

事業活動により発生する廃棄物について、発生の抑制と循環資源化を図っています。

産業廃棄物については、生産系事業場において目標値を定め削減活動を実施した結果、前年度から22.8%減となりました。これは、生産状況の変化による廃棄物減少に加えて、小集団活動による廃棄物処理方法の改善活動の結果によるものです。

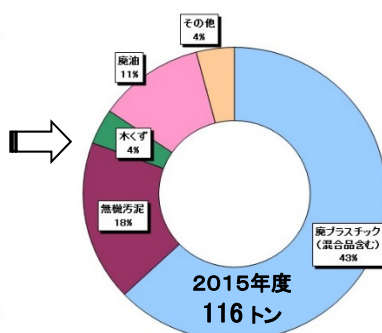
なお、事業系一般廃棄物については、前年度程度の排出量となりました。

生産系事業場における産業廃棄物排出量推移

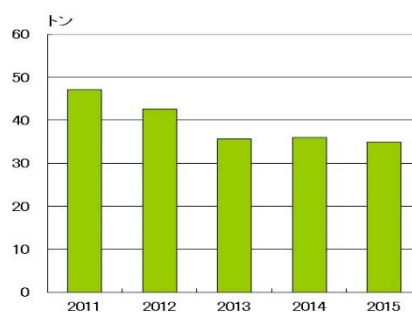


・生産系事業場：サクサ米沢事業場、株式会社コアタック、サクサテクノ株式会社(八幡原)サクサプレジジョン株式会社(米沢工場)
・産業廃棄物排出量のグラフでは、非通常の発生する廃棄物は除いています。

2015年度 生産系事業場 産業廃棄物内訳



事業系一般廃棄物排出量の推移



・剪定による切り枝は除く。
・事業系一般廃棄物の集計範囲は、サクサグループが所有している5事業場。(2012年度までは6事業場)事業場については、3ページ「環境報告書2016について」を参照下さい。

事業活動に関する環境配慮

化 学 物 質 管 理

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)」には、事業者に対して、化学物質の自主的な管理と一定要件に該当する場合、排出量、移動量を届け出ることが定められています(PRTR制度)。

サクサグループでは、この趣旨を踏まえ適切な管理を行うとともに、可能な限りの使用抑制・削減を図っています。

2015年度の状況において、サクサグループ内では、株式会社コアタックがPRTR制度の届出要件に該当することから、2016年5月に届出を行いました。

PRTR届出の状況

届け出を行った事業所の名称 (過去における届け出を含む。)	第一種指定化学物質の名称	年 度 別 移 動 量 (単位:kg) (廃棄物として処理するために当該事業所外へ移動した量)				
		2011	2012	2013	2014	2015
サクサテクノ株式会社 (山形県)	鉛及びその化合物	—	—	—	—	—
株式会社コアタック (山形県)	アンチモン及びその化合物	172.3	150.0	140.0	120.0	60.0※

・— : PRTR対象物質の取扱量集計の結果、化管法に定められた届出基準に該当しなかったため、届出は行っておりません。

・サクサプレジジョン株式会社(米沢工場)では、アンチモン及びその化合物について取扱量、廃棄量を集計しておりますが、過去5年間、取扱量が届出基準に達していません。

・「環境報告書2015」における株式会社コアタックの2014年度の数値が間違っておりましたので訂正いたしました。(誤)169.3kg→(正)120.0kg。

※2015年度は廃棄プラスチックを一部有価処理したため減少しています。

ポリ塩化ビフェニル(PCB)の管理

ポリ塩化ビフェニルは、難分解性の性状を有し、人の健康および生活環境に有害な物質であり、汚染の拡大を防止するため、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」により、ポリ塩化ビフェニル(以下「PCB」)廃棄物について、保管および処分の状況の届け出、期間内の処分、譲渡し・譲受けの制限などが定められています。

サクサグループにおいてPCB廃棄物を保管している事業場では、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の定めに従い、PCB廃棄物の散逸、漏洩等による環境汚染が発生しないよう管理しています。

また、現在も使用中の照明用安定器(PCB使用機器)については、使用済となったときに確実に回収するよう管理しています。2015年3月31日時点において、サクサグループで保管しているPCB廃棄物は下表のとおりです。なお、処理の早期登録対象機器については、日本環境安全事業株式会社に処理登録済みです。

PCB廃棄物保管状況(2016年3月31日時点)

廃棄物の種類	保 管 量 ()内は前回環境報告書記載からの増減		
	相模原オフィス	米沢事業場	サクサプレジジョン (米沢工場)
高圧トランス	6台	1台(1台増)	—
高圧コンデンサ	25台	1台(2台減)	—(1台減)
蛍光灯安定器	718個	19個	—
PCB汚染物等	—	4点	—

2015(H27)年度の処理状況

保管事業場	廃棄物の種類	数 量	最終処分終了年月日
サクサプレジジョン(米沢工場)	高圧コンデンサ	1台(30 kg)	2015年5月25日
米沢事業場	高圧コンデンサ	2台(269 kg)	2015年8月25日

規 制 遵 守 状 況

法律や条例により規制が定められている事項について、これを遵守し、また、リスクに応じ、規制に該当しない場合でも環境への負荷を最小限に抑えるために、規制に準じた管理を行っています。

2015年度、サクサグループの事業場において、法令・条例の基準値からの逸脱はありませんでした。

事 業 場	項 目		基 準 値		2015年度測定値 ※1
			法令・条例の基準値	自主管理値	
相模原オフィス (神奈川県相模原市)	騒音	昼間及び朝夕 (dB)	75	70	61.0 ※2
	振動	昼間及び朝夕 (dB)	70	65	< 40 ※2、※3
米沢事業場 (山形県米沢市)	騒音	昼間 (dB)	70	60	58.0
		夜間 (dB)	55	55	53.0
	振動	昼間 (dB)	65	50	< 45 ※3
		夜間 (dB)	60	—	— ※4

※1 実績値は、年度および測定ポイントの最大値を掲載。

※2 夜間の操業はないため、夜間の測定はしていません。測定は、稼働中の「昼間」の時間帯に実施しています。

※3 当該測定機器の測定限界値以下。

※4 昼間、通常操業中の測定にて測定限界値以下であるため、夜間は測定していません。

事業活動に関する環境配慮

緊急事態への対応

貯油施設等からの漏洩、化学物質の流出などの環境汚染に関する緊急事態を想定し、対応手順を整備するとともに、定期的に訓練を実施して、万が一の場合の影響を最小限に抑え、迅速に復旧できるよう備えています。

また、このようなリスクを回避するため、日常のおよび定期的に監視を行っています。

2015年度において、環境への影響が発生する緊急事態の発生はありませんでした。

環境教育・啓蒙活動

環境保全活動に関連し、自覚教育(eラーニングの活用等)や啓蒙活動を継続的に実施し、環境意識の定着・向上を図っています。

新入社員、新任管理職研修のプログラムには環境に関する単元を組み込むとともに、業務用車両運転資格登録者への安全運転講習会におけるエコドライブの意識づけ、製品含有化学物質管理に関する説明会などにより必要な知識の普及を行っています。

2015年度(平成27年度)環境目標達成状況

環 境 目 標		達成 状況	達 成 状 況 等
環 境 製 品 に 配 慮 し た	(1)製品含有化学物質管理		
	製品含有化学物質管理体制の運用と定着化	○	化学物質規制の進展にあわせ、製品含有化学物質管理システムの更新とグループ内共有化を開始
	(2)環境配慮製品の拡大・充実		
	製品環境アセスメント結果の向上	○	重要経営課題であるコストダウン設計の一環として製品の省資源化を実施し、アセスメント評価も達成
環 境 事 業 に 配 慮 し た	(1)地球温暖化防止		
	前年度からのエネルギー原単位改善率 1%以上 (サクサグループ所有 5事業場)	○	改善率 11.1%
	(2)廃棄物等の削減・循環資源化		
	① 生産事業場における産業廃棄物排出量原単位を前年度より改善	○	改善率 27.7%
環 境 管 理	② 事業系一般廃棄物排出量原単位を前年度より改善 (サクサグループ所有 5事業場)	○	改善率 10.0%
	(1)環境マネジメントシステムの向上		
	ISO14001 2015年度版 移行準備	○	平成29年度移行審査受審に向けた準備開始 2004年度版との差異、ISO9001との共通部分の情報収集の実施

社会貢献活動を通じた環境への寄与

サクサグループでは、事業活動に直結した環境保全活動とあわせて、企業の社会的責任としての、社会や地域に貢献できる環境活動も推進しています。

地 域 社 会 と と も に

各事業場では、近隣企業とともに行う清掃活動への参加をはじめとして、地域の美化に努めています。



近隣企業合同清掃(相模原オフィス)



八戸ハイテクパーククリーン作戦(サクサシステムエンジニアリング八戸本社)



八幡原工業団地 クリーン作戦(サクサテクノ)



八幡原工業団地 中央分離帯花植え(サクサテクノ)

社 会 貢 献 活 動 へ の 参 加 な ど

米沢地区、相模原オフィスにおいてエコキャップ運動を継続的に取り組んでおり、2016年度もペットボトルのキャップをエコキャップ推進協会に寄贈しました。世界の子供へのワクチン代となると同時に、キャップをゴミとして焼却した場合のCO2の発生を抑制することにもなります。

【エコキャップ運動】

この活動は、ペットボトルのキャップを収集し、福祉団体に寄付することを通じ社会貢献と環境意識を高めるとともにその売却益で世界の子供にワクチンを届けようという活動です。

ペットボトルのキャップは約 430 個で 10 円のワクチン代となります。

このほか、環境以外の社会貢献として2015年10月20日に米沢地区において「第54回山形県交通安全県民大会」開催され、今回山形県内の「事業所の安全管理対策を積極的に推進し、事故防止に多大な成果を収めている事業所」として米沢地区代表に選ばれ表彰を受けました。

【山形県交通安全県民大会】

交通事故の防止と交通安全思想の普及及び交通安全の高揚を図り、安全で安心できる住みよい交通社会の実現を図ることを目的として毎年開催されているものです。



山形県交通安全県民大会



表彰の様子(サクサプロアシスト)